

带状疱疹について



带状疱疹とは、子どものころに感染する水ぼうそうと同じ水痘・带状疱疹ウイルスによって引き起こされる皮膚の病気です。加齢やストレスなどによる免疫力の低下で発症し、神経痛などの後遺症が残る場合があります。ここでは带状疱疹の症状や治療、予防などを説明していきます。

どんな症状？

带状疱疹の症状は、体の左右どちらかの神経に沿って生じる皮膚の痛みを伴う発疹、水膨れといった皮膚症状が3週ほど続くのが特徴です。全身どこにでも現れる可能性はありますが、多くは上半身に見られ、目の周り、耳や首などに現れることもあります。

症状初期は、皮膚に神経痛が起きます。かゆみやしびれとして感じる程度から「ピリピリする」「チクチクする」「焼きつくような」ものまで痛みはさまざまです。

その後、神経痛が起こった部分から小さな発疹ができ、次第に数が増えます。それが水膨れに変化してい

きます。水膨れは新しいものと古いものが交ざっていき帯状になります（そのため「带状疱疹」と呼ばれます）。痛みも徐々に強くなり、体を動かせなくなったり、眠れないほど痛むこともあります。水膨れは1週間ほどで破れ、その後かさぶたとなります。皮膚症状は3週間前後で治まりますが、色素沈着や傷痕が残る場合があります。

带状疱疹後神経痛、合併症、後遺症

带状疱疹の痛みは水膨れといった皮膚症状が治るとともに軽くなりますが、神経痛が長期にわたって続くことがあります。これを带状疱疹後神経痛（PHN：Post Herpetic Neuralgia）といいます。加齢とともにPHNへ移行するリスクが高くなり、50歳以上の患者の約2割が移行すると報告されています。

他にもウイルスによって運動神経を傷つけられると、腕が上がらなくなるなどの麻痺や排尿障害を引き起こしたり、目や耳付近に带状疱疹が出た場合、視力の低下や難聴などの後遺症を残す場合があります。

治療

医療機関での治療が必要となります。治療を受けずに放置すると症状が長引き、合併症や後遺症のリスクが高くなります。できるだけ早期に皮膚科や内科を受診しましょう。

带状疱疹の治療は、ヘルペスウイルスを抑える抗ウイルス薬が中心となります。抗ウイルス薬は急性期の皮膚症状や痛みなどを和らげ、治療期間を短くします。症状が軽度～中程度の場合には、内服薬（飲み薬）の抗ウイルス薬で治療し、症状が重い場合や免疫機能が低下している場合には、抗ウイルス薬の点滴による治療が必要となる場合があります。

带状疱疹の痛みには対症療法として鎮痛剤が用いられます。強い痛みが続く場合には、神経の近くに局所麻酔薬を注入し、神経の伝達をブロックする「神経ブロック」と呼ばれる治療が行われることもあります。

治療中は安静と栄養バランスのとれた食事を心がけることが重要です。患部を冷やさないように注意し、痛みが強い場合はお風呂でしっかりと温まることで、痛みは緩和されます。

带状疱疹は他の人うつる？

患部の水膨れの中には、原因となつているウイルスが存在します。今まで水ぼうそうにかかったことがない人が水膨れに触れると、带状疱疹としてうつることはありませんが、水ぼうそうとしてうつることがあります。水ぼうそうになつたことがない人（特に赤ちゃんや妊婦）は接触を避けましょう。

どのような人がなりやすい？

带状疱疹の原因は水ぼうそうと同じ水痘・带状疱疹ウイルスです。水ぼうそうにかかったことがあれば带状疱疹は発症する可能性があります。日本人の成人のおよそ9割がこのウイルスをもっているといわれており、加齢や、ストレス、悪性腫瘍、抗がん剤の使用などをきっかけに免疫力が低下するとウイルスの活動が活発になり带状疱疹になります。

50歳から発症率が高くなり（带状疱疹患者の約7割が50歳以上の方）、80歳までに約3人に1人が带状疱疹を発症するといわれています。また、一度、带状疱疹になるとウイ

ルスに対する強い免疫がつき、かかりにくくなりますが、数%は再発するといわれています。

带状疱疹の予防法

带状疱疹は免疫力が低下すると発症しやすくなります。そのため、带状疱疹の予防には、免疫機能を低下させないよう日々の体調管理が重要になります。特に高齢者は症状も治療も長引く傾向にあります。発症自体を予防することが重要です。

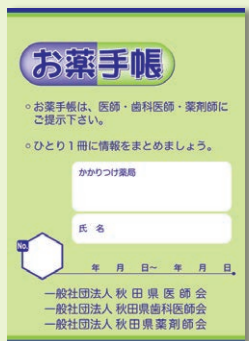
免疫力を維持するためのバランスのとれた食事、十分な睡眠、適度な運動、ストレスを減らすことが带状疱疹

疱疹の予防につながります。

また、带状疱疹はワクチンで予防できます。ワクチンを接種することで発症を抑えられるだけでなく、発症しても重症化しにくかったり痛みが残りにならなくなったりします。

ワクチンには、ウイルスの病原性を弱くした生ワクチンと、成分の一部を取り出し病原性を全くなくした不活化ワクチンがあります。日本では50歳以上の人を対象にいずれかのワクチン接種が推奨されています。対象年齢に該当する方は医師に相談し、ワクチン接種を検討しましょう。（みんなの薬局山王 土田雅也）

くすりの「安全な服用」 まずは、お薬手帳の 提示から！



処方せんの有効期限は
処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会

秋田市千秋久保町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail info@akiyaku.or.jp http://www.akiyaku.or.jp